

## 事業報告

事業所名 かめおか作業所

2015/4/1～2016/3/31

## 1. 利用者の状況

- 利用者：定員50名 現員53名（男性29名 女性24）  
 ・新規利用者2名 他事業所異動利用者1名（ぼれぼれ）
- 職員：21名（内：支援員13名 事務員5名 厨房3名）
- ・作業グループ
- 食品加工グループ：漬け物、味付け味噌、生ふりかけなど 11名  
 縫製グループ：ブックジャケット、ふきん、バッグ、ペンケースなど 13名  
 下請けグループ：お菓子の袋詰め、DM封入発送、箱折りなど 29名

## 2. 実践

## &lt;方針&gt;

1. 「はたらく」場面を通して、メンバー一人ひとりの可能性を広げる支援を行います。
2. メンバーのあたりまえの生活を支えます
3. 「誰もが安心して過ごす」ことができる作業所をめざします。
4. 「思いや願いに寄り添い」それを共感できる職員集団をめざします。

## &lt;実践内容&gt;

昨年度末には利用者のもと給料が欲しいという声から春にもボーナス取り組みをおこないました。年間合計3.0のボーナスを支給する事ができました。今年度は臨時の取り組みをせずに去年度以上のボーナスを支払うことを目指します。

食品加工グループは新利用者1名を加えて新年度をスタートしました。「自然豊かな亀岡の未来をつなぐ地域協議会」の製品の製造工場として安心安全な商品を作るために、今年度はHACCPの取得をめざします。

クラフトグループでは、成人式の記念品や亀岡高校の卒業記念品、人権週間の景品のような大口の仕事を引き続き受注できるように製品の品質の向上を目指しています。また、自主製品の開発、販売にも力を入れ、利用者が誇れる仕事づくりをしていきます。

下請けグループは新利用者1名を加えて新年度をスタートしました。障害程度の多様な下請けグループで、どの利用者もできる仕事を確保するために、何十年もお付き合いのある取引先のお仕事を大切にしながら、今年度は新しい取引先を1件増やしました。構造化を行いながらわかりやすい作業空間を大切にしています。

地域との関わりでは、今年度も蕨田野小学校のコミュニティスクールに参加させていただいています。福祉学習や交流を通して、少しでも小学生の健やかな成長の手助けを作業所の利用者がさせていただく事ができ、利用者の励みになっています。

## 3. 次期に向けての課題など

- ・本人と家族の高齢化を進んでおり、やむを得ず生活環境が変化する利用者が増えています。今後も増加の一途と思われます。この地域にある様々な事業所と連携し、利用者の「あたりまえに生きる」を支えていきたいです。
- ・昨年度以上の工賃を支給するために、新たな仕事の確保、効率の良い作業空間づくりを行って行きます。

## 平成27年度 社会福祉法人亀岡福社会 事業報告

事業所名 第二かめおか作業所

2015/4/1～2016/3/31

<p>1. 利用者の状況</p> <p>○利用者：定員35名 現員35名（男性17、女性18） ○職員17名（内：運転手1、厨房2） 7月より1名増〔火〕〔水〕〔木〕利用 〔2016/2/29現在 併用利用：〔平日〕ぼれぼれ2、花ノ木1、かしのき1 〔土〕ぼれぼれ8 計12名〕 リサイクルグループ：16名 さわさわグループ：19名（車イス利用者：男性5、女性2）</p> <p>○主な作業 リサイクルグループ…牛乳パック・アルミ缶・ペットボトルの回収、処理作業 さわさわグループ…自主製品（竹炭製品、よもぎ製品）づくり、仕入れ販売、 法人機関誌発送準備作業（6回/年）、牛乳パック・ペットボトル処理作業</p>
<p>2. 実践</p> <p>&lt;方針&gt; ～“働き・暮らす”を自分らしく歩み「わたしは主人公！」を実感できる一年とする～</p> <p>①『その人らしく働く』の場面を創造します。 ②『メンバー集団』を大切に下実践を進めます。 ③生活・健康を守る支援を進めます。 ④職員集団“チーム2かめ”で『その人らしく』をささえ『わたしが主人公』の実践をつくります。</p> <p>&lt;実践内容&gt;</p> <p>○地域（宮前町）のみなさんにご協力いただいています。 ・4月：回覧で資源回収（ペットボトル・アルミ缶）のご協力をお願いしました。引き続きたくさんのご協力をいただいています。 ・11月：宮前町民フェスティバルに参加（実行委員会に参加） ・1月：当事業所の行事「お餅つき大会」に、ご近所のききょうの里メンバーのみなさんにボランティアをお世話になりました。</p> <p>○リサイクル（回収・処理）作業 ・亀岡市内全域のたくさんの方々のご協力をいただいています。この冬は資源がとぎれずに安心…と思っていましたが、予想以上に処理スピードが上がり、この3月少し心配な状況になってきました。さらに回収先を増やすなど、資源を確保するための工夫をしている所です。 ・安全な資源の置き場や、処理作業をもっと有効に回転させるために新規機械の導入も引き続き考えていきます。</p> <p>○自主製品づくり作業 ・他府県から「よもぎ湯の素（入浴用）」購入のお問い合わせをいただいています。この冬も順調です。</p>
<p>3. 次期に向けての課題など</p> <p>○人材育成のありかたの検討（人員確保）</p> <p>○環境整備について ・高齢化、重度化が進んでおり、実践内容をはじめスペース的にも環境整備が必要。 ・車イス利用の方が過ごしやすい空間、スローペースの高齢の方の居場所づくりなど、次年度以降の近い将来には、改築や増築等も考えていく必要がある。</p> <p>○メンバーの仕事や給料について ・開設20年の節目を迎え、障害の重い人の仕事のありがたや、給料（工賃）についての考え方を整理する時期にきている。現状をふまえて骨格を組立て次年度の本格的な議論へとつなげる。</p>

## 平成27年度 社会福祉法人亀岡福祉会 事業報告

事業所名 第三かめおか作業所

2015.4.1～2016.3.31

<p>1. 利用者の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者 40名（男性 24、女性 16）定員+1</li> <li>・一般就労 2名（京都桂川病院清掃・たのしくはたらく／就労継続支援A型）</li> <li>・職員 14名（内：亀岡市事業 1、厨房 2）</li> <li>・作業 和洋菓子グループ… シフォンケーキ、もち焼きあられ等の製造・販売 地域就労グループ… イオン亀岡店、たなばたの郷、マンション、公共施設、介護保険事業所等の清掃、企業 や個人宅の草刈り、ワックスがけ</li> </ul>
<p>2. 実践</p> <p>&lt;方針&gt;</p> <p>*「夢や願いをつめこんだ『らしく（ビジョン）』への第2歩を」</p> <p>今年度も、障害のある人が地域で自分らしく生きるために大切な要素、働きがいのある仕事、生活の糧となりうる工賃の保障、挑み・手応えを得る場面づくりをめざして取り組んでいます。</p> <p>&lt;実践内容&gt;</p> <p>外勤では、次年度に向けて現業務の見直しが始まっています。イオン亀岡店の業務縮小の代わりに請け負った、新しい仕事場・たなばたの郷で学んだことを活かし、メンバーが使いやすい清掃道具を揃え、どの請負先でも、誰もが同じ手順で、仕上がりで、作業できるようマニュアルの整理や清掃の学習会を行っています。新年度からは職員態勢も変わるため、あらためて現業務の整理、見直しを行い、次のステップに向けて検討を始めます。</p> <p>内勤ではヤマト福祉財団からの助成金を活用して「大型焼き釜オープン」導入しました。その他の必要な設備について法人負担で整備し、さらなる生産増・販路、事業拡大をめざします。</p> <p>多くのメンバーは、この間の取り組みのなかで、働くことを通してたくましく変わってきました。「自分が困っていることを話せるようになる」「話したことで解決していなくても気持ちの整理ができる」「何度でもやり直しができる」姿がたくさん見られています。目の前に自分が必要とされている仕事があること、自分がやってみたい、やらなければならないと思う仕事があることが、創りだしてきた変化だと思われまます。一方、これらの取り組みを直接励みにしにくいメンバーには、個別に必要な働きかけを行い、それぞれ自分のペースで、納得のいく働き方を見つけることを見守ってきました。</p> <p>そのために要となることは、事業と実践をつくる職員集団であることは言うまでもありません。職員の仕事が多岐にわたるなか、喜びだけでなく悩みも多いですが、大切なことは何か、私たちの役割は何なのかをつねに語り合う、伝えあえる職員集団をめざして、取り組んでいきたいと考えています。</p>
<p>3. 次年度に向けての課題など</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・来年度は、働くことを通して大きく変化してきたメンバーの姿を、いっそう前に推し進められるよう、次のステップをめざす準備期間として、現状をふり返り、内実を整理、仕組みを整えていきたいと思ひます。</li> <li>・これまでの取り組みのなかで明らかになってきた課題、就労移行支援事業をさらに明確にすることや、自分らしい毎日をつくるために必要な多様な視点からの働きかけ、取り組みなど、さらには第三でも少しずつ実感しつつある、「メンバーの高齢化」について議論をすすめます。</li> <li>・第三の将来ビジョンである「らしく・はたらくサポートセンター」の具体化を視野に入れ、そのために必要なことを話し合い、具体化を検討、必要な提起を行っていききたいと思ひます。</li> </ul>

## 平成27年度 社会福祉法人亀岡福祉事業報告

事業所名 デイセンターぽればれ

2015/4/1～2016/3/31

1. 利用者の状況
<p>○利用者 定員20名 ・契約者数 46名</p> <p>・曜日別利用者数  (月) 14名 (火) 13名 (水) 12名 (木) 14名 (金) 11名 (土) 15～20名  *8月より2名新規利用(作業所との併用 月・火のみ1名 土曜日利用1名)</p> <p>・併用利用先  かめおか作業所12名 第二かめおか作業所10名 太陽共同作業所1名 花ノ木5名  ワークスおーい1名 太陽共同作業所1名 あしたーる1名 はるの里1名 支援センター圭1名</p>
2. 実践
<p>&lt;方針&gt;○安心感と見通しのある毎日を人とのかかわりのなかで</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「市民として生きている」実感を地域や社会、人とのつながりのなかで作り、ひとりひとりの豊かな人生を援助する実践を追求します。</li> <li>・ありのままの姿に寄り添い、安心して自分を出せる場所、ほっとできる居場所づくりを進めます。</li> <li>・「学び」を意識し、共に学び語り合える職員集団をめざします</li> </ul> <p>&lt;実践内容&gt;</p> <p>日中活動：  今年度も「わかる」「みえる」「実感できる」をどうつくっていくか、この視点やねらいをもって様々な活動や場面づくりにとりくんだ。どの活動でもメンバーの声をきき、思いを引き出す時間や場面を大切に、メンバー自身も活動をつくる主人公になることで、「わかる」「みえる」「実感できる」活動になっていると感じる。</p> <p>生活・健康：  生き生きとした生活づくり、安心して通い続けるための支援、日々の身体状況の把握や機能維持については、メンバーの姿をとおして考えさせられることが多くあった。ぽればれでの過ごしだけでない生活全体をどう支えていくか、相談支援を中心とした関係機関との連携がますます重要になっている。加齢にともなう身体機能の低下は避けることができないが、いくつになってもやりがいや自分がいる意味を感じられる場や関わりは、「生きる意味」につながることで、大事にしていきたい。</p> <p>地域とのつながり：  これまでのつながりを継続させ、『みなみのかぜ』『池田公生とお洒落倶楽部』のみなさんとのコンサートを開催した。どちらも十年來のおつきあいとなり、年に1～2回ではあるが、メンバーのみなさんも懐かしい友人に会うような、お互いに顔と名前がわかる間柄になっている。コンサートのように日中活動の中身を少し広げたとりくみについてはぽればれだけのものにせず、法人内の事業所や関わりのある事業所、地元婦人会サークルのみなさんなどに呼びかけ、小さな範囲かもしれないが、メンバーが企画や準備に関わり、地域のみなさんと楽しむ場をつくることは、「必要とされている」を、メンバーや職員以外の人とのかかわりのなかで実感できる機会となっている。</p> <p>職員集団：  今年度は1年をとおして職員体制が不安定な状況が続き、日々のことで精一杯になってしまっていた感はぬぐえない。そんななかでも「働く」ではない日中活動の場として、メンバーひとりひとりの障害実態や利用実態に応じた「ぽればれだからできること」をすすめてきた。</p>
3. 次年度に向けての課題など
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「わかる」「みえる」「実感できる」活動の実践</li> <li>・改めてビジョンに照らして、ぽればれのこれからの描くために見学や学習をすすめる</li> </ul>

# 居宅生活支援事業 (ケアホーム・ゆめネット・ショートステイ)

平成27年度 社会福祉法人亀岡福祉会 事業報告 2015/4/1～2016/3/31

1. 利用者、職員等の状況				
		利用者数	職員	キーパー・ヘルパー・介護人
グループホーム	あゆみ荘	男性 5	<正規> 男性 2 女性 3 アルバイト 2	男性 5 女性 1 (夕食作り)
	つばさ荘	女性 4		女性 4
	ホームすみれ	女性 4		女性 4
	ホームたんぽぽ	男性 4 / 女性 3		男性 5
	ホーム菜のはな	女性 5		女性 5
	ホーム菜のはな	男性 4		女性 4
	ホームひまわり	女性 5		男性 3
ヘルプ	ゆめネット 居宅介護 ガイド	居：23人 (月平均) ガ：20人 (月平均)		女性 4 男性 2
	ショートステイ 日中一時支援	ショート：13人 (月平均) 日中一時：47.5人 (月平均)		女性 5 男性 2
2. 実践				
<p>&lt;実践報告&gt;</p> <p>○グループホーム</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・8月10日に法人7つめのホームひまわり (女性5名) を開所しました。8月24日には、地元自治会や行政関係の皆さんをお招きして、お披露目の会を開きました。たくさんの方々にお祝いして頂き、スタートすることができました。“これから始まる自分らしい暮らし”を応援していきたいと思います。</li> <li>・合同世話人会議や外部研修へ参加し学びつつ実践することを大切にしています。</li> </ul> <p>○ゆめネット</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新しいグループホームへの入居に伴い、居宅介護の時間数が減っています。グループホームから一人暮らしに挑戦された方の居宅介護に入り、一人暮らしを応援しています。</li> <li>・1人の方を様々な事業所とネットワークを組みながら支援しています。</li> </ul> <p>○ショートステイ・デイサポート</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的にショートステイを利用されていた方が、グループホームへ入居されました。新しい環境に比較的早く馴染めた人、なかなか馴染めない人など様々なですが、ショートステイの場が、“ご家族から離れて、ちょっと練習してみる場”にもなっています。</li> <li>・たくさんのニーズがあります。場所と介護人の確保が必要です。</li> </ul>				
3. 次年度にむけて				
<p>○グループホーム</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・メンバーの会の定期的開催する。</li> <li>・第8番目のグループホームの開設にむけての動きをつくる。</li> <li>・住環境の整備に力を入れる。</li> </ul> <p>○ゆめネット</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ヘルパーの確保と養成に力を入れる。</li> <li>・地域の障害のある人たちの生きることを支える職員集団をめざす。</li> </ul> <p>○ショート・デイサポート</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護人の確保と学習する機会を設ける。</li> <li>・障害の重い人が利用される時には、予期せぬ事態が起こります。緊急事態が起こっても、慌てず冷静に対応できるように普段からケース検討会を行ない、ご家族とも連絡を密に取り合うことを大切にしていきます。</li> </ul>				

## 平成27年度 社会福祉法人亀岡福社会 事業報告

事業所名 相談支援センター巴（ともえ）・お結び

2015/4/1～2016/3/31

1. 利用者の状況
<p>○巴（ともえ）： 計画相談対象者 219名 相談件数 2947件</p> <p>○お結び： 相談対象者 291名 相談件数 1186件</p> <p>*お結びの一般相談に関わり、その後サービス利用の意向が確認されて巴へ移行し継続して巴で支援していくために、巴の相談件数が大幅に伸びた。</p>
2. 実践
<p>&lt;方針&gt;</p> <p>○当事者やその家族の思いに寄り添うためにも障害の理解を深める。</p> <p>○生活のしづらさを丁寧にとらえて、地域で安心して暮らしつづけられるように日常生活全体を支援していく窓口になる。</p> <p>○啓発活動に力を入れて、地域作りの種を蒔いていく。</p> <p>○障害者虐待の未然防止や早期発見、迅速な対応、その後の適切な支援のための知識を深める。</p> <p>&lt;実践内容&gt;</p> <p>○巴（ともえ）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・計画相談対象者はH25年度68名、H26年度131名、H27年度は219名と伸びてきています。</li> <li>・一人ひとりのケースでは、精神障害の方から暴言や脅しのような言葉に振り回されて、対応に苦慮したことが多くありました。そういった困難ケースからは、例えば精神障害の方であれば地域との関係が希薄になって生活がしづらい状況になっていることや、地域から「危ない人」「何をするか分からない人」といった偏見や先入観をもって見られている状況が浮かび上がってきました。</li> <li>・一方で困難なケースほど関係機関が増えていき、様々な機関との連携ができるようになりました。また巴との関係がこじれてしまったケースを他の相談支援事業所が引き継いでくださるなど、関係機関として当事者の地域生活を支えていこうとする連携も生まれています。</li> </ul> <p>○お結び</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スーパーバイザーの役割でケース会議に呼ばれる機会が増え、新しくできた相談支援事業所が作成するサービス等利用計画を、市役所へ提出する前にお結びでチェックする役割もありました。</li> <li>・各ネットワーク会議への参加だけでなく、亀岡市自立支援協議会の中に相談支援部会を立ち上げ、定期的（月1回）に相談支援事業所が集まってケース検討や地域課題共有を行っています。</li> <li>・地域生活支援事業（日中一時・生活サポート・移動支援）のガイドライン作成や、児童の障害福祉サービス（児童発達支援・放課後等デイサービス・保育所等訪問支援）の支給決定に係る基本的な考え方の作成に参画しました。</li> <li>・なんたん障害者就業・生活支援センターとの共催で当事者学習会の開催や、お結びとしてピアカウンセラー事業（毎週木曜日の午後）を実施しています。</li> <li>・亀岡市からの委託で相談支援事業を行う中で、虐待防止対応なども含め基幹型相談支援センターに準じた役割や機能を担っています。</li> </ul>
3. 次期に向けての課題など
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「福祉」を「サービス」という扱いにしている制度の中、相談支援の仕事で一番大切な、そしてこの仕事の醍醐味である「あなたと私の関係性」の築きがどんどん希薄になっているように思える今日、ただ単にサービスを利用するためだけのサービス等利用計画ではなく、改めてその人の生活を丸ごと支えるツールであるという意識を一人ひとりの相談支援専門員が持つ必要があります。そういった相談支援事業の原点に立ち返り、併せて人材育成に取り組んでいきます。</li> <li>・障害者差別解消法や権利条約と照らし合わせながら、相談支援を通して一人ひとりの生活のしづらさや地域の課題を明らかにしていきます。</li> </ul>

## 平成27年度 社会福祉法人亀岡福祉会 事業報告

事業所名 地域活動支援センター 絆

2015/4/1～2016/3/31

1. 利用者の状況
○利用実績 登録人数 24名 年間のべ利用人数 417名 開所日 火・木・金・土・日
2. 実践
<p>&lt;方針&gt;</p> <p>○亀岡在住の主に知的障害や障害のある人たちがこの地域の主人公として、いっそう心豊かに、主体的に暮らしていけるよう、生きる力を強める支援をします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・安心して過ごせる居場所の第一歩として、気軽にサロンに来て相談できるような人間関係づくりを心がける。</li> <li>・相談支援センターお結びとも連携し、一人一人が安心して生活できるスタイルを利用者と一緒に考えていきます。</li> </ul> <p>○1年かけて利用者のニーズを探り、一人一人ほっとできる場、落ち着ける場の模索をしていきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・安心できる空間づくり（サロンの整理）</li> <li>・魅力あるプログラムづくりの検討</li> </ul> <p>○地域の地域活動支援センターの活動を知り、絆の今後の魅力ある活動づくりを考えていくきっかけにしていく。</p> <p>&lt;実践内容&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用されている方の多くは主婦や一人暮らしをされている方、これから就職に向けて身体や生活のリズムを整えたいという方が利用されていて、年齢層も幅広く20歳～58歳となっています。</li> <li>・平日の利用者は若い年齢層の方が中心で、近い将来就職を考えている方が多く、生活訓練のような要素を取り入れた活動や体力作りを中心のプログラムを取り入れていき、地域生活を送る為の基本的な社会のルールを利用者同士で考え合えることを意識しました。</li> <li>・土日は、主婦や一人暮らしの方、これから外に出る練習をしたい方が中心に利用されているので、そんな方々の居場所として気軽に参加できるよう、利用者のニーズに合わせてプログラムを組み立てました。</li> <li>・取り組み内容は料理の活動を中心に、創作活動や体力づくりの為のウォーキング、散歩、野菜園芸等を行い、料理では本を見ながらメニューを考え、食材を買いにスーパーに行き調理をしています。今まで包丁を使ったことがない方が1年かけ料理の練習をして、自宅でも挑戦されました。</li> <li>・絆では体調が悪いときに参加しても自分を受けてくれる仲間がいる、体調に合わせて利用ができるということが、利用される方にとって安心感に繋がっています。「安心して生活をする」ということは、元の場所で以前と同じように働くということがゴールではありません。その人にとって“無理なく働ける場や日中を過ごせ場を一緒に探していくこと”が大切だということを意識して日々の実践を行ってきました。</li> </ul>
3. 次期に向けての課題など
<ul style="list-style-type: none"> <li>・平日の利用者と土日の利用者では、その年齢層だけでなくニーズも違うことから、生活訓練的内容とレクリエーション的な内容に大きく分けていき、一人ひとりに合った中身作りを模索していきます。</li> <li>・絆の部屋を整理して使いやすい空間にするとともに、疲れたときに一人で気持ちの整理ができるようにパーテーションを用意するなどの工夫や、“どこに何を片付けるか”視覚的に分かるような構造化を考えていきます。</li> </ul>